

「サステナブル金融」の時代

Vol.3



制作／東洋経済企画広告制作チーム

150年以上の歴史があり、英国の本部のほか64の国と地域でサービスを提供する世界有数の金融グループ、HSBC。長年、ESGの課題に対して幅広く取り組んできたが、2020年10月に自らの事業運営・サプライチェーンでの「ネット・ゼロ」（二酸化炭素排出量を実質ゼロにする）達成を2030年に、また顧客の排出量削減・低炭素経済への移行支援による2050年までのネット・ゼロ達成を宣言した。

サステナビリティは「実行するもの」金融市場にかかる期待も大きい

サステナビリティの概念は、1992年にリオデジャネイロで開催された地球サミットから広がったとされる。それから30年近く経った今、サステナビリティは地球上の誰もが「実行するもの」となった。これは、収益第一主義と思われがちな金融市場、そしてその参加者も例外ではない。

「企業が持続可能な発展をするために必要なのは、まず志を持つ

こと、次に遂行計画を立てること、計画に従ってサプライチェーンを動かすこと。そして最後に、持続可能性の精神を、商品やサービスから投資まですべての戦略に組み込むことです」と、HSBC証券チーフ・エグゼクティブ・オフィサーの永原千華子氏は語る。

「当社は、ESG貸し出しや伝統的なESG債発行のアレンジだけではなく、新しいタイプのESG債による資金調達や、投資機会の提案も積極的にを行っています。また、今や世界第2位の金融市場となった中国における、グリーンボンド市場も注視していきます」

「ESG債」の今とこれからすべてのプロセスにESGの視点を

ESG債の歴史は、2006年にさかのぼる。最初は、予防接種のための国際金融ファシリティ

(FFI)が2006年に発行したワクチン債だ。興味深いことに、日本の個人投資家はESG初期から重要な市場参加者であった。日本社会にサステナビリティの精神が根付いていることの証左であろう。とくにここ数年、日本企業によるESG債の発行、機関投資家による責任投資の本格化が進んでいる。

ESG債はグリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナビリティボンドの3つに分類されるが、15年以降は3種すべての債券発行額が、前年を上回るペースで拡大中だ。さらに最近では、低炭素経済社会への移行を促進する目的のトランジションボンドや、サステナビリティ目標の達成度合いに応じて利率が変わるサステナビリティ・リンク・ボンドが注目を集めている。「当社は20年、事業会社が発行する世界初の『廃プラスチック削減債』のアレンジを行いました。プラスチックごみ問題は世界的な



The Banker
Investment Banking
Awards 2020

- ◆サステナビリティ部門 最優秀投資銀行
- ◆グリーン/クライメート・アクション・ボンド部門 最優秀投資銀行
- ◆SSA発行サステナブル・ボンド部門 最優秀投資銀行

社会課題で、その改善に当社が与ってきたことはとても光栄です。またこれにより、社員がESGの課題を再考し、日々の生活に反映していく意識を持ったことも大きな成果でした」（永原氏）

ESG債は、金融ビジネスがサステナビリティに貢献できる最たるもの。同社はこれからも、サステナビリティの実現に向けて取り組んでいくという。「当社は、現状にとどまるつもりはありません。実際、ESG債のみならずESGポートフォリオ投資へのソリューション、ESG指標を加味したカスタマイズレポートを提供し始めました。お客様がサステナブルな事業を構築する、そのプロセスのすべてに、金融として何ができるのか考えていきます」（永原氏）。